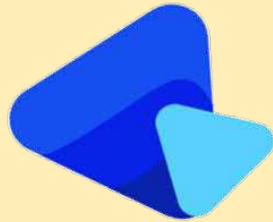


コンパクトスマートシティプラットフォーム（都市OS） 接続仕様概要

誰でも始められる
スマートシティのプラットフォーム

- ◆統合アプリで利用者の利便性向上
- ◆利用者自身が情報管理
- ◆各組織のデータを繋ぐデータ連携基盤

3つのコアと色々なサービスを提供する企業と一緒にスマートシティが作れます



UAX-LINK

地域サービスポータルアプリ
開発プラットフォーム

街のサービスを整理して、簡単に使える





PERSONAL-LINK

個人データ管理プラットフォーム

許諾ベースの個人データ利活用が可能

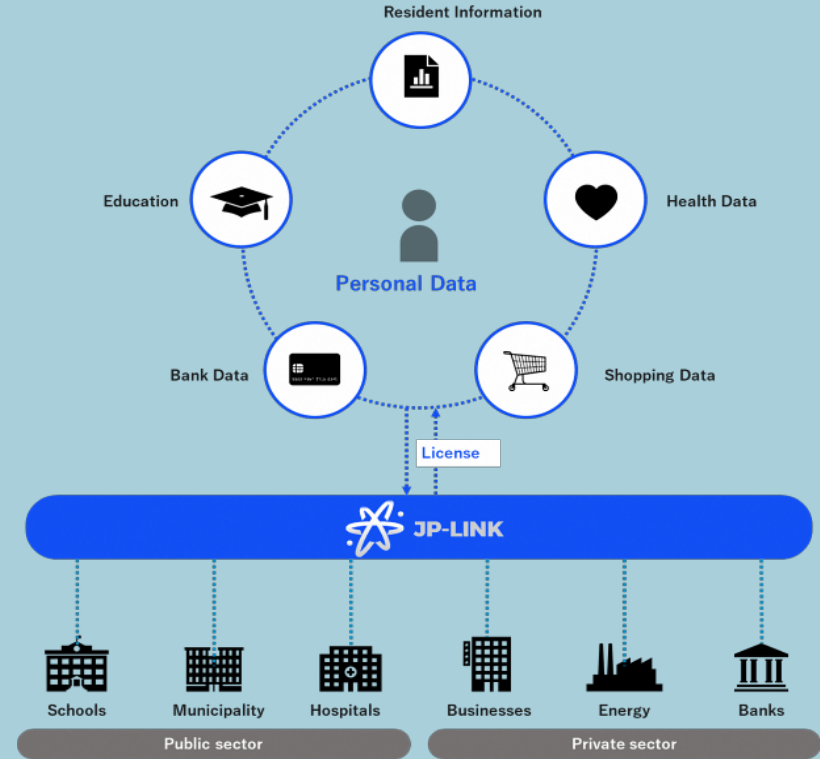


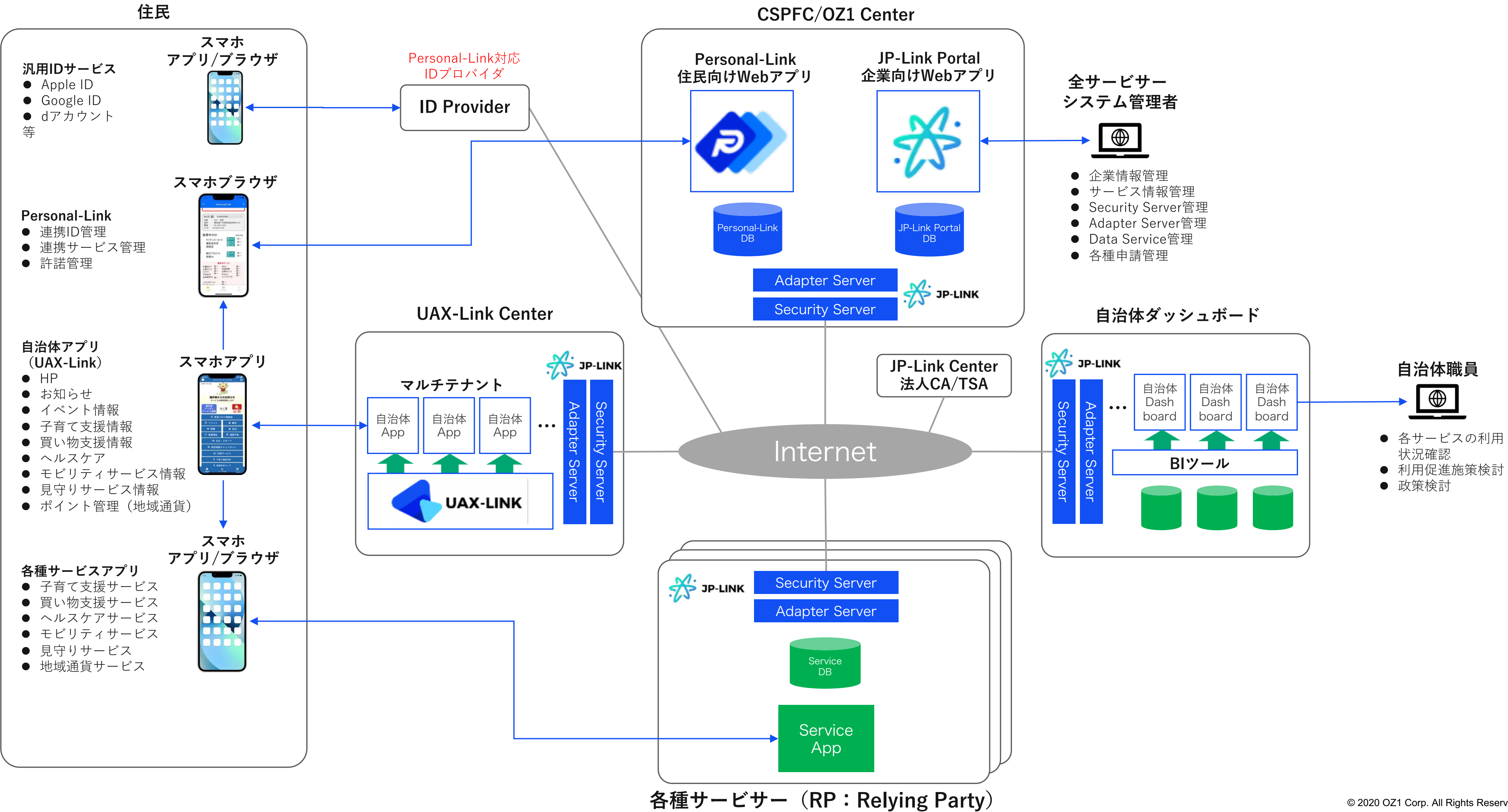


JP-LINK

トラステッド データ連携プラットフォーム

データを安全に連携・簡単インストール
大国からのサイバー攻撃から
20年以上防衛に成功した安全性





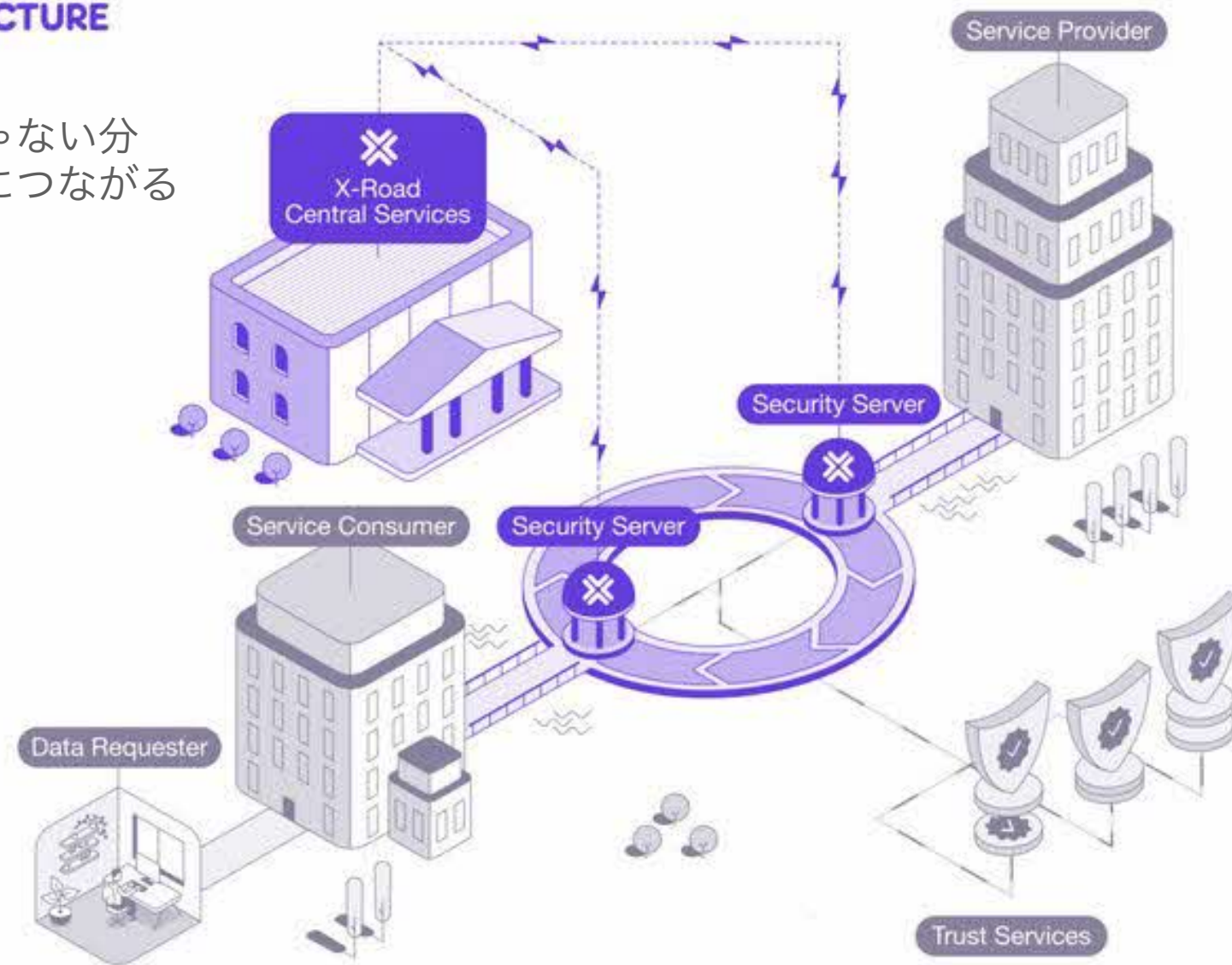


JP-Link アーキテクチャ 及び 環境構築概要

インターネットを介してSecurity Server同士が通信

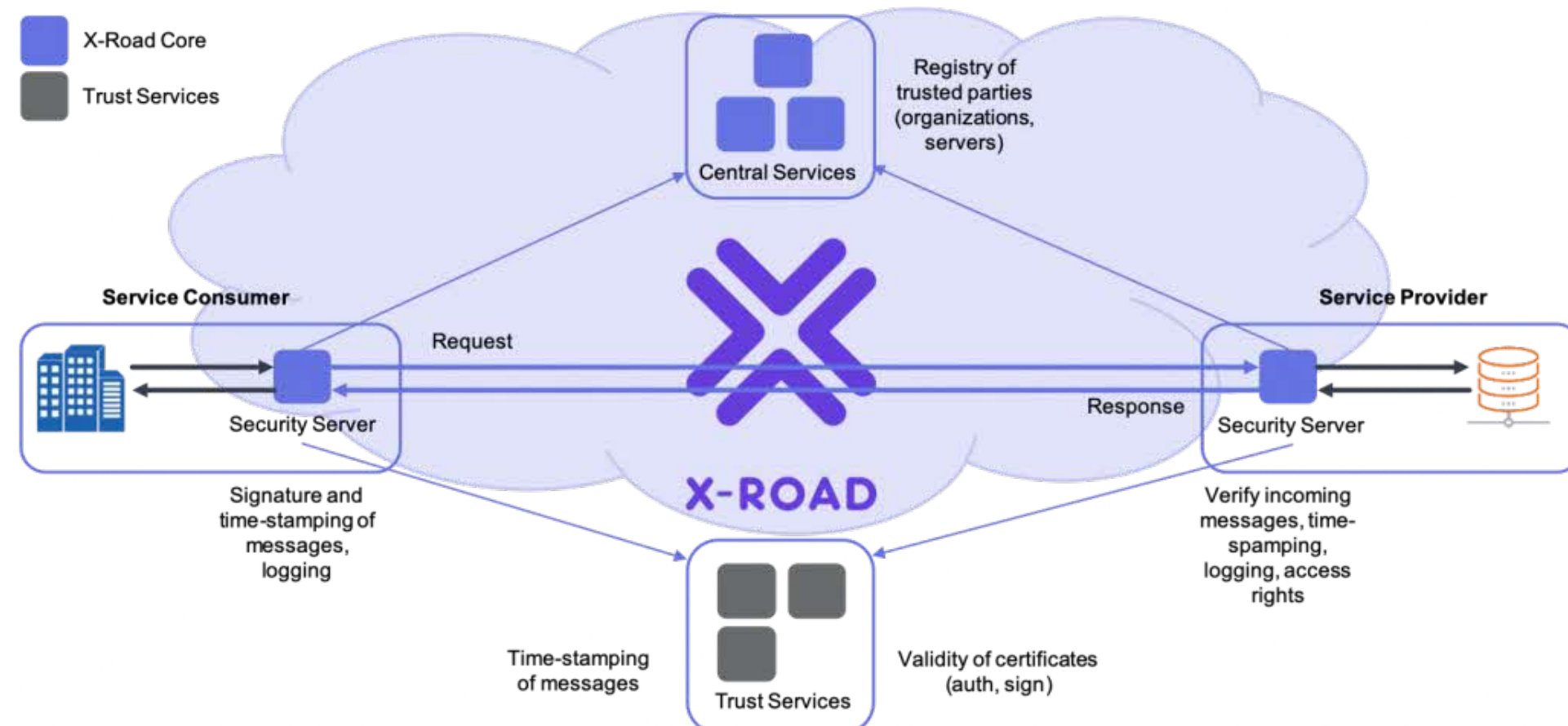
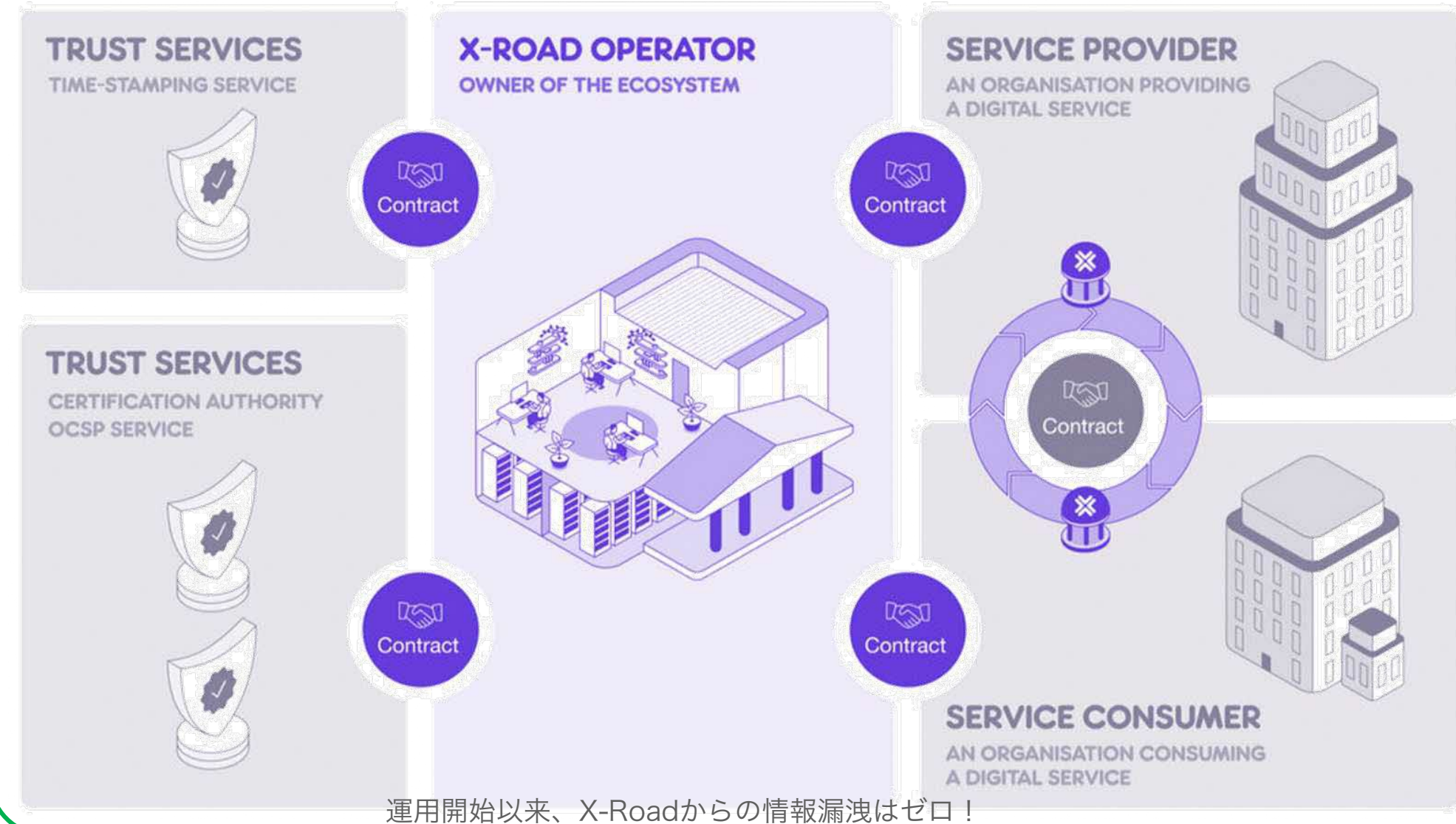
X-ROAD ARCHITECTURE

専用回線じゃない分
コストの低減につながる



トラストサービスとしてのエコシステムも万全

X-ROAD ECOSYSTEM



Peer to Peer (点同士がメッシュで繋がる)

サービスが増えるたびにAPIの開発調整は不要

組織間・企業間でデータ連携を決めれる

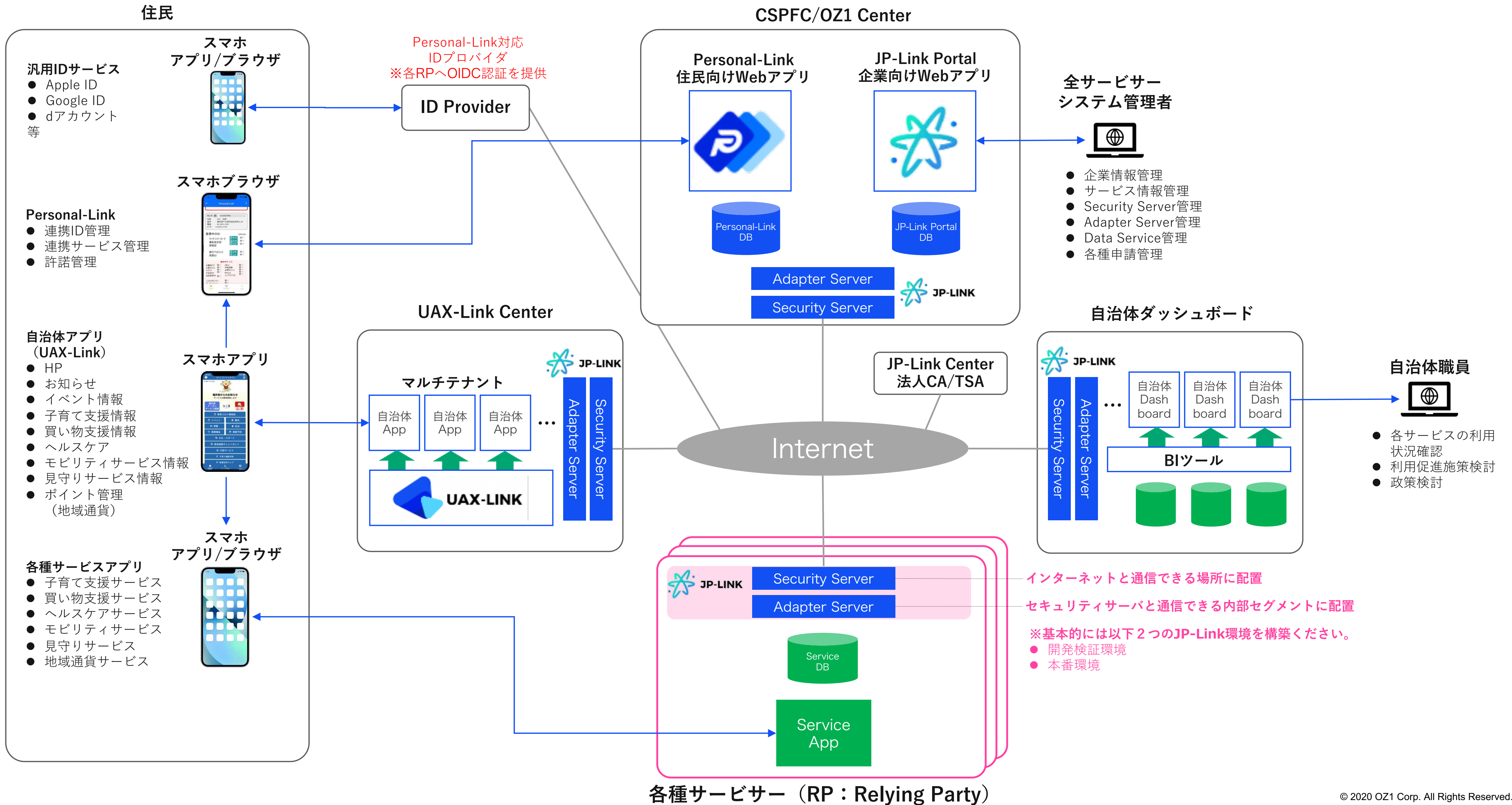
接続対象とデータを交換（書き換えや参照など）が可能

データ・サービス連携だからカタログも簡単

データカタログを中央集権的に集めるなくても大丈夫

個人情報・パーソナルデータにも対応

エストニアでは99.9%行政サービスがデジタル化



セキュリティサーバ動作環境

	Ubuntu	Red Hat Enterprise Linux（RHEL）
OSバージョン	Ubuntu 20.04 or 22.04 LTS x86-64	RHEL 7.3以上、RHEL 8以上
CPU/メモリ	CPU 2 Core以上 RAM 4GB 以上	CPU 2 Core以上 RAM 4GB 以上
ストレージ	・OSパーティション10GB以上の空き容量 ・他パーティション(/var 配下) 20GB 以上	・OSパーティション10GB以上の空き容量 ・他パーティション(/var 配下) 20GB 以上

セキュリティサーバポート構成（インターネットと通信できる場所に配置）

解放するポート	用途
TCP5500 インバウンド/アウトバウンド	セキュリティサーバ間のメッセージ交換のため
TCP5577 インバウンド/アウトバウンド	セキュリティサーバ間のOCSPサービス要求用
TCP4001 アウトバウンド	中央サーバとの通信用
TCP80 アウトバウンド	グローバル設定をダウンロードするため
TCP80 / 443 アウトバウンド	タイムスタンプサービスおよびOCSPサービスとの通信用
TCP4000 インバウンド（ローカル）	セキュリティサーバのユーザーインターフェイスにアクセスするため
TCP80 / 443 インバウンド/アウトバウンド（ローカル）	情報システム接続用
TCP8080/8443 インバウンド/アウトバウンド（ローカル）	(RHEL のみ)情報システム接続用
TCP80/8085/8003 アウトバウンド	アダプターサーバとの通信用

セキュリティサーバ導入手順（概要）

項番	項目	作業時間の 目安 ※1
1	JP-LINKのメンバーコードの取得(OZ1へ依頼)	5分
2	動作環境の準備	各社VM環境作成工数
3	セキュリティサーバのインストール	30分
4	セキュリティサーバの初期セットアップ	10分
5	CSRをOZ1へ送信する ※2	5分
6	証明書のインポート	5分
7	内部通信方式（HTTP or HTTPS）の選択	5分
8	OZ1テストサービスとの疎通確認	10分
合計		70分

アダプターサーバ動作環境

	Ubuntu	Red Hat Enterprise Linux（RHEL）
OSバージョン	Ubuntu 20.04 or 22.04 LTS x86-64	RHEL9.1
CPU/メモリ	CPU 2 Core以上 RAM 4GB 以上	CPU 2 Core以上 RAM 4GB 以上
ストレージ	50GB 以上	50GB 以上

アダプターサーバポート構成(イントラネットでセキュリティサーバとイントラDBとの通信できる場所へ配置)

解放するポート	用途
TCP80 / 443 インバウンド	アダプターサーバのユーザーインターフェース接続用
TCP80/8085/8003 インバウンド	セキュリティサーバとの通信用
(TCP5432 アウトバウンド)	データベースとの接続・通信のためにデータベースごとに設定されるTCPポートのアウトバウンド（PostgreSQLの場合、デフォルトポートは5432）※他のRDBMSの場合は各標準ポート等を設定。

アダプターサーバ導入手順（概要）

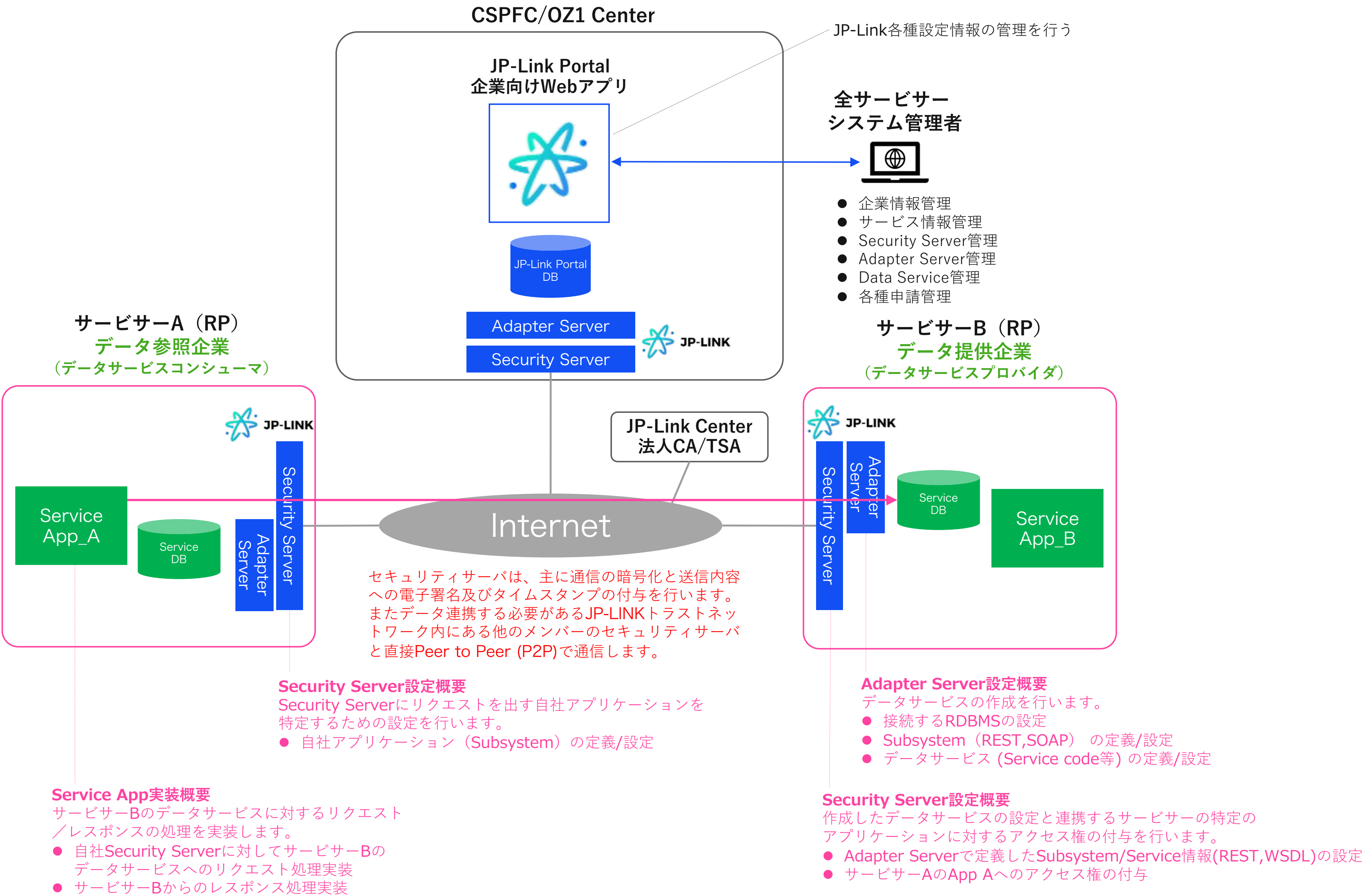
項番	項目	作業時間の 目安 ※1
1	動作環境の準備	各社VM環境作成工数
2	Adapter Server のインストール	20分
3	Adapter Serverでのサービスの作成	20分
4	セキュリティサーバへのサービスの登録及びアクセス権設定（セキュリティサーバ側作業）	10分
合計		50分

※1）サービサー（RP）側で実施を想定。上記は本プロダクト導入経験があるエンジニアの標準工数で担当の技術スキルに応じて工数が前後する場合がある。詳細については、「JP-Link／Personal-Link 実装関連ドキュメント」をご参照。

※2）CSR（Certificate Signing Request）とは、セキュリティサーバ証明書を発行するための証明書の署名要求のこと

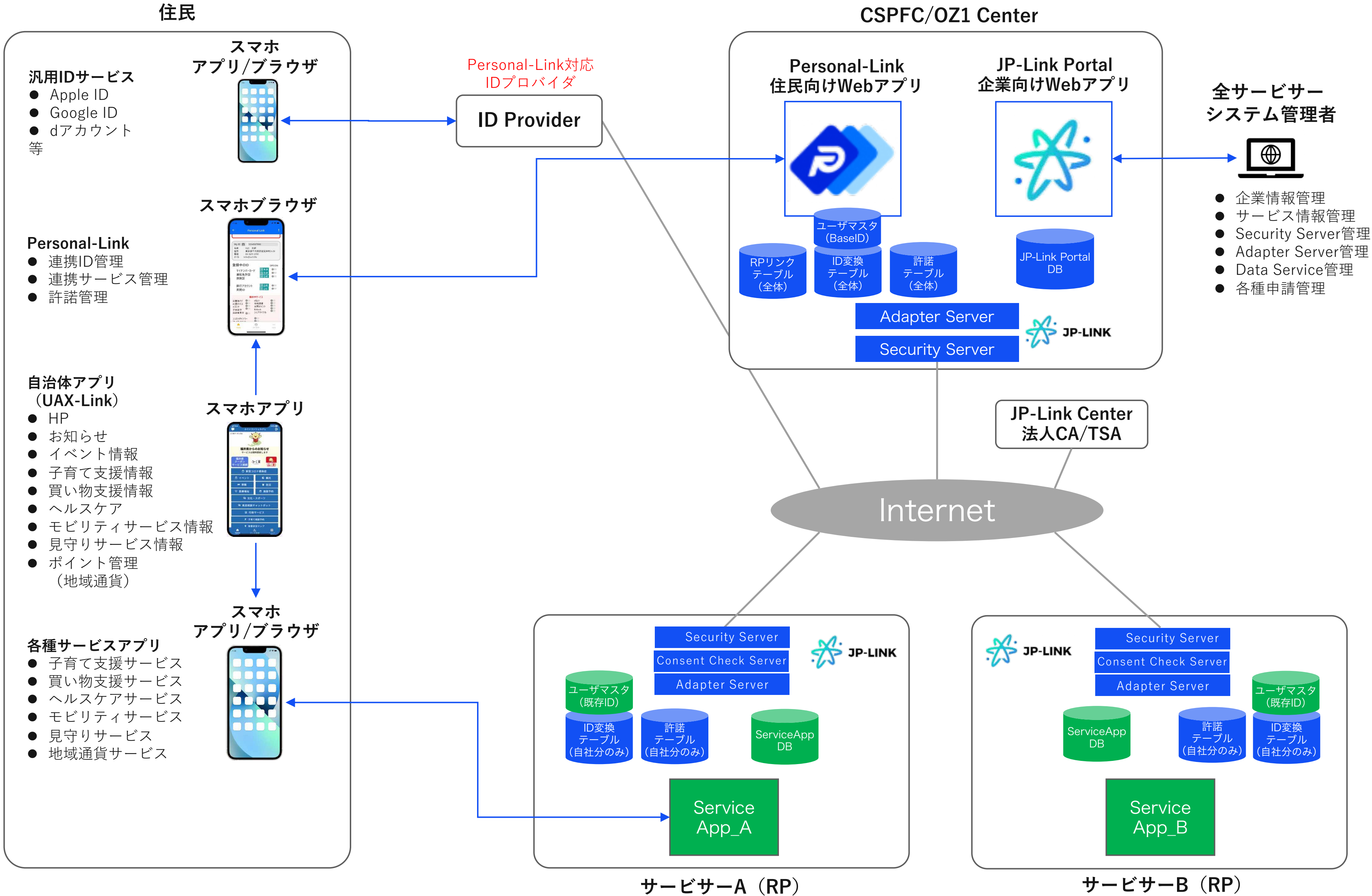
標準翌営業日夕刻以降の証明書の返信。

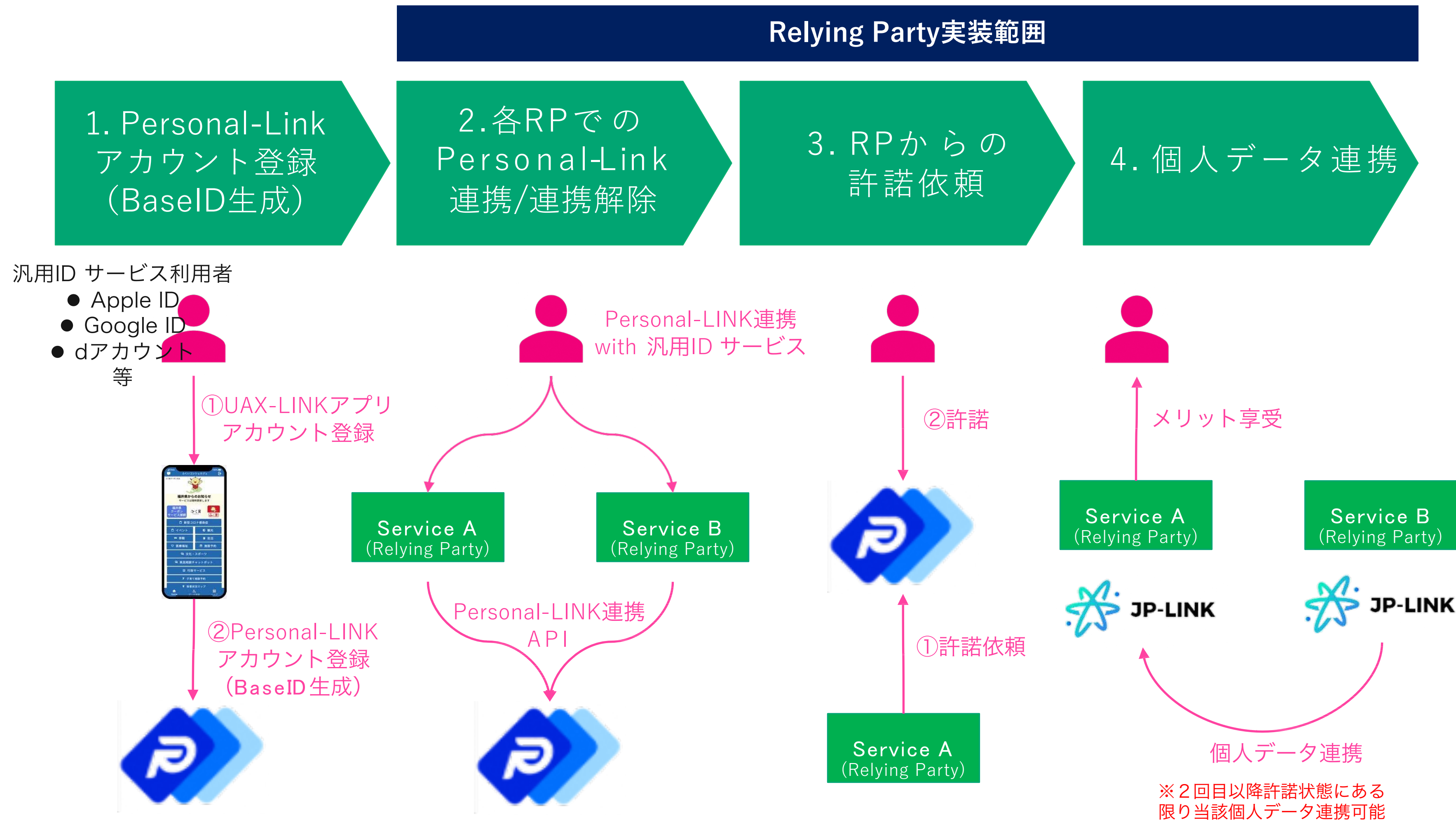
© 2020 OZ1 Corp. All Rights Reserved.

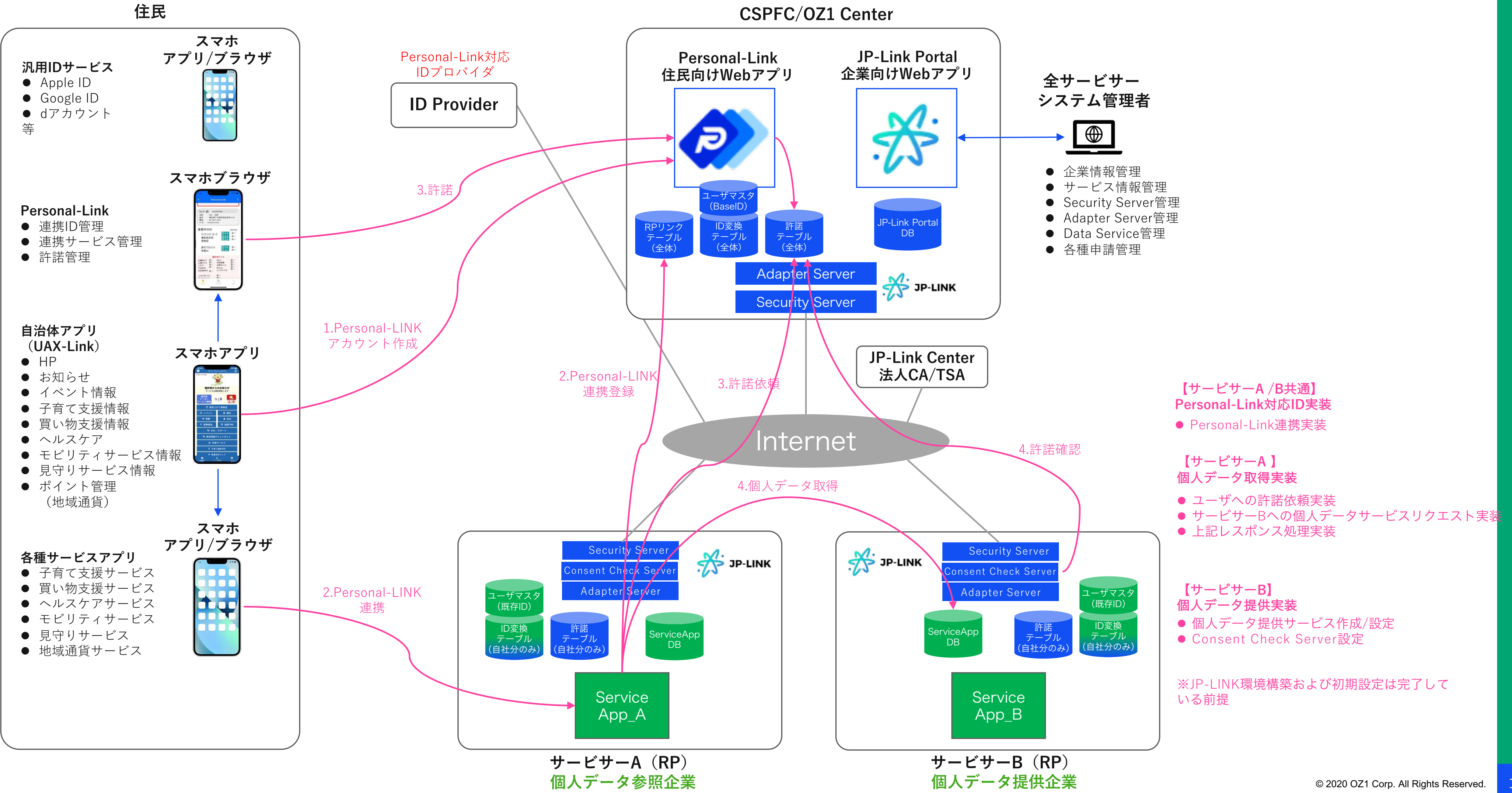




Personal-Link アーキテクチャ 及び 実装概要







EoF